

農薬の基礎知識 I

農薬の種類

病気には殺菌剤を、害虫には殺虫剤を使用します。

農薬の適用に関しては、使用する植物及び病害虫によって異なります。購入時に確認してください。農薬の登録状況については、農林水産省の「農業登録情報共有システム」(<https://pesticide.maff.go.jp>) から検索できます。

殺菌剤

大きく分けて糸状菌（カビ）による病気と細菌（バクテリア）による病気があり、効く薬剤が異なります。

糸状菌による病気：灰色かび病、さび病、うどんこ病など

細菌による病気：斑点細菌病、もみ枯細菌病、軟腐病など

殺虫剤

害虫の体に直接散布して退治する薬剤、植物の表面に付着・吸着した成分を食べさせて退治する薬剤、成分が浸透した植物汁液を吸わせて退治する薬剤など、作用の仕方はいろいろあります。

殺ダニ剤

ダニは昆虫でないため、多くの殺虫剤は効果がありません。ダニ専用の農薬を選びます。

世代交代が早く、猛烈な繁殖力をもっているうえ、薬剤抵抗性がつきやすいので、早期発見・防除が必要です。

そのほか、ナメクジ、カタツムリに対しても専用の農薬を選びます。

農薬の形態

乳剤・液剤 液状の薬剤で、規定量の水で薄めて使用します。薬害が出やすいので注意します。

水和剤・水溶剤 粉状の薬剤で、規定量の水で薄めて使用します。散布後植物に汚れを残しやすいです。

粒剤 粒状の薬剤で、噴霧器は必要なく、そのまま株元にばらまいたり、土にすき込んだりします。植物汁液を吸汁する害虫に効きます。他剤と比べて遅効的です。

スプレー剤 薄めずそのまま使用します。応急用として便利です。

